





2015年4月に刊行されたSI Libretto『日本語の風景』の刊行記念企画展を開催いたします。本学図書館の所蔵する古典籍などを題材として、先人達が日本語を文字に書き写すときに行ってきた様々な工夫の跡を紹介します。



【展示名】  
SI Libretto 刊行記念企画展  
和うるわし 日本語の風景

【会期】  
2015年7月1日(水)~10日(金)  
12:00~16:00  
7月4日(土)のみ10:30~14:00

【会場】  
図書館本館(生田校舎9号館3階)

- 【構成】
- 第1部 日本に固有の文字はなかった
  - 第2部 漢字の画数を省略した「片仮名」
  - 第3部 漢字を崩して書く「仮名」
  - 第4部 絵と「仮名」
  - 第5部 「仮名」の利点を生かす会話文
  - 第6部 文字から見た専修大学草創期

あわせて読みたい SI Libretto シリーズ 001~005 ↓ ↓ ↓



このたび  
刊行されたのは  
こちら→



SI Libretto (エスアイ・リプレット) は、本学の21世紀ビジョン「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」実現の一端を担う図書の刊行として、2009年4月に創刊されたものです。その名称には、Socio-Intelligenceの頭文字SIを取り、かつ内容をわかりやすく解き明かした手軽な小冊子という意味が込められています。専門の研究者との連携により、内容をより充実させた本書は、専修大学からの社会への「知の発信」となって、各方面のニーズに応えるものとなりましょう。

一般書店で販売。学内では購買会(生田)、邦光堂(神田)でお求めいただけます。

## SI Libretto『日本語の風景』刊行記念特集 うさ仙人インタビュー



この度、専修大学図書館編『日本語の風景 —文字はどのように書かれてきたのか—』専修大学出版局、2015、299頁(SI Libretto 006)が刊行されました。この出版企画は、2011年秋に開催した特別展「和(やまとし)うるわし —日本の文字と書物の歴史」が好評を得たことを背景としています。特別展では「資料の展示」及び「関連内容の講演会」を実施しましたが、これに対する反響は企画に関わった者の予想を超え、一般市民や大学教育からのニーズの多さを実感できるものでした。また、展示の図録(B5判・31頁)は、大学教育の教材・資料集として使用され、そうしたニーズに応え得るものとして、書籍の公刊は、専修大学からの知の発信の手段として企画されました。

執筆陣は講演会の講師を中心に据え、内容は、特別展「和(やまとし)うるわし —日本の文字と書物の歴史」の趣旨に沿うものですが、書籍にふさわしい内容・構成とするために、特別展の図録をそのまま転載するのではなく、主要な資料を厳選し、写真・図を交えた「読み物」として再執筆したものです。

また、大学生だけでなく広い読者層を想定し、古い時代の日本語に関心をもつ方や、現代日本語の表記に関心をもつ方にも読んでもらえるように配慮されています。漢字の伝来から、その後の日本語がどのように発展してきたのか、文字と表記の歴史を考察するなかで、日本語の文字の世界、奥深さを、書家・日本語学者がさまざまな角度から説き起こします。

本書の構成は以下のとおり。

- 第1章 漢字の伝来から日本の文字文化へ / 仲川 恭司 (専修大学文学部教授・書家)
- 第2章 日本語と文字 / 斎藤 達哉 (専修大学文学部教授)
- 第3章 漢文訓読と日本語 / 高田 智和 (国立国語研究所理論・構造研究系准教授)
- 第4章 文字はどこを向いているか / 屋名池 誠 (慶應義塾大学文学部教授)
- 第5章 国語施策としての漢字表の意味 / 氏原 基余司 (江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授)

100年くらい図書館に住んどります。  
名前：うさ仙人  
身長：新書サイズ  
体重：わたあめ1袋分  
誕生日：1912年9月 おとめ座

☆今日の一句  
「図書館の 分からんことは わしに聞け」

